

榛原町遺跡調査集 I

榛原町文化財調査概要 15

1995

榛原町教育委員会

榛原町遺跡調査集 I

榛原町文化財調査概要 15

1995

榛原町教育委員会

例　　言

- 1 本書は、榛原町教育委員会が1972年度（昭和47年）から1994年度（平成6年）までに実施した発掘調査等の概要を収録した『榛原町遺跡調査集Ⅰ』（榛原町文化財調査概要15）である。
- 2 本書には、すでに発掘調査報告書等を刊行している遺跡も含めて表2に発掘調査等一覧表としてまとめ、別途報告書の刊行を予定している遺跡以外の小規模発掘調査の概要を中心に掲載している。
- 3 1984年（昭和59年）以降の調査記録、遺物等は榛原町教育委員会において保管している。なお、1972年（昭和47年）～1983年（昭和58年）までの調査記録、遺物等は奈良県立橿原考古学研究所または関西大学等において保管されている。
- 4 本書の執筆・編集は、井上好美、山本美恵子、南信子、杉本淳子の協力のもと、榛原町教育委員会　社会教育課技師　柳澤一宏が担当した。

目 次

I 位 置 と 環 境.....	1
1 地 理 的 環 境	
2 歴 史 的 環 境	
II 埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 の 概 要.....	3
III 発 掘 調 査 概 要.....	25
1 八 滝 家 ノ 前 遺 跡.....	25
2 丹 切 遺 跡 (第 2 次).....	27
3 母 里 遺 跡 群.....	29
(1) 母 里 遺 跡.....	29
(2) 母 里 イモリ 遺 跡.....	32
(3) 母 里 シバノタニ 遺 跡.....	33
4 沢 遺 跡 隣 接 地.....	35
IV 立 会 調 査 概 要.....	38
1 案 牧 市 場 遺 跡.....	38
2 八 滝 家 ノ 前 遺 跡.....	40
3 沢 カ ジ ャ 谷 地 区.....	42
4 坊 ノ 浦 遺 跡.....	42
5 坊 ノ 浦 遺 跡.....	44
6 丹 切 古 墳 群.....	45
7 丹 切 遺 跡.....	46
8 丹 切 遺 跡.....	47
9 丹 切 遺 跡.....	48
10 戒 場 遺 跡.....	49
11 八 滝 長 板 遺 跡.....	50
12 笠 同 所 在 遺 跡.....	51

I 位置と環境

1 地理的環境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており、現在の行政区画では大字宇陀町、櫛原町、菟田野町、室生村、曾爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300~400mの丘陵とこの間に縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも総称され、大字宇陀町、櫛原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの峻しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら櫛原町萩原で宇陀川本流となる。櫛原を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

櫛原町の四周は概ね標高約400~800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割跡があり、北は大和高原とを区切る額井岳、香駒山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大字宇陀町、南は菟田野町となっており、丘陵をもってそれぞれの境界としている。地形的にみれば櫛原町の西半は口宇陀的、東半は奥宇陀的な様相を呈している。



図1 櫛原町位置図

2 歴史的環境

宇陀地方は、「古事記」、「日本書紀」をはじめとする多くの文献にも度々登場し、軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。また、櫛原町を流れる宇陀川・芳野川・内牧川流域の各所には多くの遺跡が分布しており、発掘調査・分布調査を重ねるたびにその数も増加している。

これまでに、宇陀郡内では3点の有舌尖頭器が出土しており、うち、2点が町内から出土していることが明らかとなっている。これらは、旧石器時代末期から縄文時代草創期に求めることができ、

この頃が宇陀の歴史の初源であろう。

縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これらの遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになつたものは少ない。このような状況のもと高井遺跡では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒジキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓は、これまでに野山遺跡群、能峰遺跡群、下井足遺跡群、大王山遺跡群、キトラ遺跡などで確認されている。この頃の集落としては、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、能峰中島遺跡、上井足北出遺跡、谷遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や堅穴式住居跡などが確認されている遺跡もある。

古墳時代前期の古墳は谷畠古墳、中期の古墳としては高山1号墳、シメン坂1号墳、前山1号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期になると古墳數は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、町内各所の尾根上には数基から十数基単位で分布している。5世紀後半から盛期を迎える古墳群は野山古墳群、沢古墳群、栗谷古墳群、大王山古墳群、丹切古墳群などが知られている。6世紀後半以降、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、丹切古墳群、能峰古墳群、石田古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場してくるが、最も代表的なものが、壬申の乱で活躍した将軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓である。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。

古代末には宇陀においても莊園の開発が急速に進み、このなかで台頭してきた在地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が發展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・沢氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、沢城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したところもある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峰遺跡群、八咫島遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

(参考文献等省略)

II 埋蔵文化財発掘調査の概要

樅原町内では、1968年（昭和43年）以降、土木工事等の開発行為にともなう埋蔵文化財の発掘調査が奈良県教育委員会及び奈良県立樅原考古学研究所によって実施されている。また、樅原町教育委員会が調査主体の発掘調査は、1972年（昭和47年）より実施しているが、1983年（昭和58年）までは調整及び発掘調査等は、研究者や奈良県立樅原考古学研究所等に依頼していた。

1984年（昭和59年）からは、ようやく、樅原町教育委員会の発掘調査体制が整い、これ以後、町事業・民間事業等に伴う発掘調査を中心に実施しているが、諸般の事情から十分な整理作業が実施できず、未報告資料等も増加傾向にある。このような状況のもと、本書には、これまでの調査成果の概要を整理するため、樅原町教育委員会が1984年（昭和59年）以降に取り扱った埋蔵文化財発掘届・発掘調査等を表1、表2としてまとめ、あわせて発行文献一覧表（表3）も掲げている。

表1 埋蔵文化財発掘届・発掘調査件数等一覧表

摘要 \ 年度	1984 昭和59	1985 昭和60	1986 昭和61	1987 昭和62	1988 昭和63	1989 平成元	1990 平成2	1991 平成3	1992 平成4	1993 平成5	1994 平成6	合計
遺跡有無確認踏査額	4	5	5	1	4	3	4	2	2	2	1	33
埋蔵文化財発掘届(法57-2)	0	0	0	3	2	0	4	4	11	3	9	36
埋蔵文化財発掘通知(法57-3)	3	3	3	6	13	6	9	4	7	7	5	66
埋蔵文化財発掘届・通知合計	3	3	3	9	15	6	13	8	18	10	14	102
発掘調査(町教育委員会担当)	2	5	4	6	4	3	7	7	6	8	10	62
立会調査(町教育委員会担当)	0	0	1	2	4	1	0	0	3	2	2	15
測量調査(町教育委員会担当)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
調査件数合計	2	5	5	8	8	4	7	8	10	10	12	79

表2 発掘調査等一覧表

1972(昭和47)～1983(昭和58)年度

番号	調査別	桜原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
1	発掘調査	1-70 15-B-5	谷畑古墳	桜原町萩原	1972・7・12～ 1972・8・21	小学校建設工事 (桜原町)	
2	発掘調査	2-197～ -205 15-B-97 -101 -234	大王山遺跡	桜原町下井足 篠栗	1973・5・28～ 1973・11・1	小学校建設工事 (桜原町)	
3	発掘調査	2206	大王山遺跡 (大王寺跡)	桜原町下井足	1974・4・26～ 1974・5・14	小学校建設工事 (桜原町)	
4	発掘調査	1-34 12-D-10	長峯出口山地区	桜原町長峯 133	1978・7・21～ 1978・7・30	道路建設工事 (桜原町)	約50
5	発掘調査	4-21 105-1	文林麻呂墓	桜原町八瀬 1557-4 1558-3	1981・3・15～ 1981・4・31	範囲確認調査 (桜原町)	140

1984(昭和59)年度

番号	調査別	桜原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
6	発掘調査	2-546 15-D-90	下城・馬場遺跡 (1次調査)	桜原町沢 1302, 1309-1	1984・8・18～ 1984・10・27	集落センター 建設工事 (桜原町)	220
7	発掘調査	1-71～84 15-B-3 -4 -6	神木坂古墳群 (1次調査) 萩原ドタニ遺跡	桜原町萩原 下井足	1984・9・17～ 1985・1・12	土地区画整理工事 (桜原町)	

1985(昭和60)年度

番号	調査別	桜原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
8	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (1次調査)	桜原町下井足 90-1	1985・6・27～ 1985・7・29	郵便局建設工事 (郵政省)	260

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
円墳1 中世墓1	銅鏡、筒形鋗器、石鏡、鉄製武器類(素環頭大刀、鉄刀、鉄槍、鉄劍)、鉄製農工具類(鎌、鋤、斧、鍬)、小刀、鏡、朱	古墳時代前葉(4世紀末葉)の古墳 中世墓	1974-1
堅穴式住居、溝、石棺墓、木棺墓、土塙墓、方形台状墓1、前方後円墳1、円墳5	サヌカイト、石鏡、弥生、銅鏡、須恵器、土器等、鉄刀、鉄輪、紡錘車、玉類、鉄劍、鐵鏡、鐵鏡、八稜鏡、青磁、陶磁器、石造物ほか	弥生時代の住居跡・墓地、古墳時代前期(3世紀後葉)・後期(6世紀前葉)の古墳群、中世墓群、近世寺院跡	1974-2 1977-1
建物遺構、平坦面	土師器、瓦器、陶磁器、瓦、須恵器、弥生土器、鉄釘	土師器、瓦器、陶磁器、瓦、須恵器、弥生土器、鉄釘	
なし	なし	自然地形	
方形墓壇	木炭、鉄釘 (天保2-1831年 墓誌、銅鏡、ガラス製骨壺、金銀外容器出土、1952年 国宝指定)	奈良時代の火葬墓	1982-1

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
自然流路、井戸、土坑、ピット	サヌカイト片、縄文土器、弥生土器、瓦器、土師器、瓦質土器、砥石	縄文時代～古墳時代の遺物散布地(集落跡)、中世の城館跡	1985-1
円墳1、土塙墓6、ピット、木棺墓 土葬墓1、火葬施設8	石器、弥生土器、土師器、須恵器、土師器、鉄鏡、鉄刀子、切子玉、糞玉、銅鏡 八稜鏡、灰釉壺、鐵釘 土師器、鉄釘	縄文時代～春秋時代・奈良時代の遺物散布地、6世紀前葉～7世紀中葉の古墳群(3基)、平安時代の墳墓、中世墓	1974-1 1986-1

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
素掘溝	瓦器、土師器、鐵貨	縄文時代～中世の遺物散布地	1986-2

番号	調査別	株原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
9	発掘調査	2-180 ・ (未登載)	上井足北出遺跡 (1次調査)	株原町上井足	1985・12・16～ 1986・2・19	農地造成工事 (株原町)	318
10	発掘調査	2-181 ・ (未登載)	上井足上出遺跡	株原町上井足			270
11	発掘調査	4-11 103-54～ -56	高井遺跡	株原町高井	1986・2・20～ 1986・3・31	農地造成工事 (株原町)	
12	発掘調査	1-71 ・ (未登載)	神木坂古墳群 (2次調査)	株原町下井足	1986・3・27～ 1986・3・31	土地区画整理工事 (株原町)	144

1986(昭和61)年度

番号	調査別	株原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
13	発掘調査	4-11 103-54～ -56	高井遺跡	株原町高井	1986・4・1～ 1986・10・24	農地造成工事 (株原町)	
14	発掘調査	1-71 ・ (未登載)	神木坂古墳群 (2次調査)	株原町下井足	1986・4・1～ 1986・4・8	土地区画整理工事 (株原町)	144
15	発掘調査	1-71 -73 -74 -81 15-B-3 -4	神木坂古墳群 (3次調査)	株原町萩原 下井足	1986・9・1～ 1987・3・31	土地区画整理工事 (株原町)	
16	発掘調査	4-22 105-2	八瀬家ノ前遺跡	株原町八瀬 983、984	1987・2・10	農地造成工事 (株原町)	22
17	立会調査	1-67 ・ (未登載)	桧牧市場遺跡	株原町桧牧	1986・12・2 1986・12・18 1987・2・19	農地造成工事 (株原町)	77

調査概要		文献番号 (表3)
遺構	遺物	
自然流路、溝、土坑、ピット、溝ほか	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、石錐、木製品、木包丁、須恵器、土師器、瓦器ほか	縄文時代～古墳時代・平安時代～中世の遺物散布地(集落跡) 1987-1
なし(自然谷地形)	土師器、瓦器ほか	
土坑、斐棺、溝、堅穴式住居ほか	縄文土器、石錐、石斧、凹石、磨石、砥石、独鉛石、サヌカイト、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、鉄釘、鐵刀子、鉄滓ほか	縄文時代・奈良時代～平安時代・中世の集落跡 1987-1
なし	土師器	縄文時代～平安時代・奈良時代の遺物散布地、6世紀前葉～7世紀中葉の古墳群(3基)、平安時代の墳墓、中世墓 1988-1

調査概要		文献番号 (表3)
遺構	遺物	
土坑、斐棺、溝、堅穴式住居ほか	縄文土器、石錐、石斧、凹石、磨石、砥石、独鉛石、サヌカイト、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、鉄釘、鐵刀子、鉄滓ほか	縄文時代・奈良時代～平安時代・中世の集落跡 1987-1
なし	土師器	縄文時代～弥生時代・奈良時代の遺物散布地 6世紀前葉～7世紀中葉の古墳群(3基)、平安時代の墳墓、中世墓群 1988-1
方墳1、円墳1、土塁墓1 土葬墓7、火葬施設4、土坑	須恵器、土師器、金環、鉄刀子、鉄釘、新羅系土器、黒色土器、錢貨ほか	1988-1
なし(自然谷地形)	土師器	中世の遺物散布地 本書
なし	土師器	中世の遺物散布地 本書

1987(昭和62)年度

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
18	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (2次調査)	榛原町萩原 177-1	1987.7.17	宅地造成工事 (三和相互株式会社)	34
19	発掘調査	2-485 15-D-184	母里遺跡	榛原町母里 149,252-1, 254	1987.12.15~ 1987.12.21	農地造成工事 (榛原町)	37
20	発掘調査	2-496 (未登載)	母里イモリ遺跡	榛原町母里 64-2,89-1, 91-2			24
21	発掘調査	(未登載) (未登載)	母里シバノタニ 遺跡	榛原町母里 120,123,134			34
22	発掘調査		沢遺跡隣接地	榛原町沢 大貝 山路	1987.12.17~ 1987.12.18	農地造成工事 (榛原町)	126
23	発掘調査	2-180 (未登載)	上井足北出遺跡 (2次調査)	榛原町上井足	1987.12.10~ 1988.2.29	農地造成工事 (榛原町)	866
24	立会調査	4-22 105-2	八瀬家ノ前遺跡	榛原町八瀬 981	1987.7.23	農地造成工事 (個人)	
25	立会調査	2-552,553 15-D-95 202	沢カジヤ谷地区	榛原町沢 686-1,687-1 688-1	1988.2.10	個人住宅建設工事 (個人)	

1988(昭和63)年度

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
26	発掘調査	1-84 (未登載)	神木坂古墳群 (4次調査)	榛原町萩原	1988.6.26~ 1988.7.22	土地区画整理工事 (榛原町)	23
27	発掘調査	2-631 (未登載)	大貝ヒジキ山遺跡	榛原町大貝 181,189-1, 189-2	1988.9.26~ 1988.12.28	農地造成工事 (榛原町)	360
28	発掘調査	4-17 105-2	赤城下志明遺跡	榛原町赤城 759,762,778,779 780,789,790,791 794,796,797	1988.11.5~ 1989.2.19	農地造成工事 (榛原町)	1050

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
なし(自然谷地形)	弥生土器、須恵器、瓦器、土師器	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡)	本書
なし(自然谷地形)	瓦器	弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地	本書
なし(自然谷地形)	瓦器	中世の遺物散布地	本書
なし(自然谷地形)	土師器、瓦器、陶器、磁器	中世の遺物散布地	本書
なし(氾濫原)	なし		本書
自然流路、溝、土坑、ピット、掘立柱建物	サヌカイト、繩文土器、弥生土器、石斧、石包丁、網繩、木製品(木包丁、鉤、轆、轂、刀子ほか)、須恵器、土師器、黑色土器、瓦器、陶磁器、青磁、铁滓、铁釘、土塁ほか	縄文時代～古墳時代・平安時代～中世の遺物散布地(集落跡)	
落ち込み状遺構	須恵器、土師器、瓦器	中世の遺物散布地	本書
なし	なし		本書

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
土坑	土師器、黒色土器、瓦器、弧形土製品	縄文時代～平安時代・奈良時代の遺物散布地 6世紀前半～7世紀中期の古墳群(3基) 平安時代の墳墓 中世墓群	1989-1
自然流路 土葬墓9、火葬施設11、土坑、 石敷造構	繩文土器、弥生土器、石斧、石鎌、古式土師器、須恵器、土師器、瓦器、木製品(轆、轂ほか)、陶器、鐵貨、五輪塔ほか	縄文時代～古墳時代・中世の遺物散布地 中世墓群	1991-1
掘立柱建物、礎石建物、溝、土坑、ピット、石列ほか	石獅、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器、鐵釘、鐵刀子、五輪塔、石臼、筒状銅製品	縄文時代・中世の遺物散布地 中世の建物跡	1990-1

番号	調査別	橿原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
29	発掘調査	2-355 15-B-129	高塚遺跡 (2次調査)	橿原町高塚	1989・1・21～ 1989・2・27	下水道敷設工事 (奈良県)	17
30	立会調査	4-3 103-51	坊ノ浦遺跡	橿原町自明	1988・6・16～ 1989・2・3	河川改修工事 (奈良県)	
31	立会調査	4-3 103-51	母里遺跡隣接地	橿原町母里	1988・11・14～ 1988・11・15	下水道敷設工事 (奈良県)	
32	立会調査	・	丹切古墳群	橿原町下井足	1988・11・22	グランド整備工事 (奈良県)	
33	立会調査	2-355 15-B-129	高塚遺跡	橿原町高塚	1989・3・1～ 1989・3・30	下水道敷設工事 (奈良県)	

1989(平成元年)年度

番号	調査別	橿原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
34	発掘調査	2-621・622 (未登載)	西谷1号墳 2号墳	橿原町桧牧 580	1989・5・15～ 1989・8・19	老人養護施設建設工事 (社会福祉法人 慈心会)	
35	発掘調査	4-14 (未登載)	赤坂牛ノ尾地区	橿原町赤坂	1989・6・26～ 1989・8・31	農地造成工事 (橿原町)	162
36	発掘調査	2-516 15-D-75	大貝古墳群 ワマエジリ1号墳 ワマエジリ2号墳	橿原町大貝 338-1,520	1989・10・23～ 1990・3・19	農地造成工事 (個人)	515
37	立会調査	4-3 103-51	坊ノ浦遺跡	橿原町自明	1990・2・2	河川改修工事 (奈良県)	

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
なし(自然谷地形・遺物包含層)	弥生土器、古式土師器、土師器、瓦器	弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地(集落跡)	1989-2
なし	なし	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地	
なし	なし	弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地	
なし	なし	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地	本書
なし	なし	弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地(集落跡)	1989-2

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
円墳2(横穴式石室墳) 土坑	須恵器、土師器、鉄刀、鉄刀子、鉄釘、金環、銅環、瓦器、サヌカイトほか	6世紀後葉の古墳群(5基)	1991-2
なし	なし	自然地形	1990-1
横穴式石室墳2、土塚、土坑	縄文土器、須恵器、土師器、鉄刀子、金環、銅環、土師器、五輪塔	6世紀後葉～7世紀前葉の古墳群	1990-3
なし	なし	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地	本書

1990(平成2)年度

番号	調査別	榛原町道路地図番号 奈良県道路地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
38	発掘調査	4-34 105-19	内牧カラト遺跡	榛原町内牧 257	1990-6-12～ 1990-7-17	林道建設工事 (榛原町)	50.3
39	発掘調査	2-516 15-D-75	大貝古墳群 ワマエジリ2号墳 (2次調査)	榛原町大貝 520	1990-7-26～ 1991-3-20	農地造成工事 (個人)	80
40	発掘調査	1-100 (未登載)	下井足カワタ遺跡 (1次調査)	榛原町下井足 155,156	1990-8-8～ 1990-8-22	道路建設工事 (榛原町)	40
41	発掘調査	2-222 (未登載)	榛原アサマ遺跡 (1次調査)	榛原町榛原 52ほか	1990-11-1～ 1990-11-28	ゴルフ練習場建設工事 (トーワ企画株式会社)	620
42	発掘調査	4-41 (未登載)	赤埴上俵遺跡	榛原町赤埴 1293ほか	1990-11-27～ 1991-1-23	農地造成工事 (榛原町)	443
43	発掘調査	1-112 (未登載)	赤瀬遺跡	榛原町赤瀬 303-2ほか	1990-12-17～ 1991-1-7	農地造成工事 (榛原町)	100
44	発掘調査	2-544 15-D-84	沢遺跡 (3次調査)	榛原町沢 1413-1	1991-2-14～ 1991-2-27	農業用倉庫建設工事 (個人)	12

1991(平成3)年度

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
45	発掘調査	1-113 (未登載)	萩原西高田遺跡	榛原町萩原 1862	1991-4-15～ 1991-5-10	宅地造成工事 (三和相互株式会社)	94
46	発掘調査	1-24 12-D-11	萩原前川遺跡	榛原町萩原 2021-1	1991-6-10～ 1991-6-12	共同住宅新築工事 (松原建設株式会社)	37.7
47	発掘調査	4-23 105-3	八瀬長坂遺跡	榛原町八瀬 1101, 1104	1991-6-25～ 1991-7-2	農地造成工事 (榛原町)	212

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
土坑	凹石(採集)	縄文時代の遺物 散布地 奈良時代の祭祀遺跡	1990-2
横穴式石室墳1、土坑、ピット	土師器、瓦器、陶磁器、瓦質土器、鉄釘ほか	6世紀後葉～7世紀前葉の古墳群(7基) 中世～近世の遺物散布地(遺物群)	1991-3
溝	サスカイト、須恵器、土師器	弥生時代～中世の遺物散布地	1992-2
自然流路、ピット、火葬施設、土坑、溝	サスカイト、石錐、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、白玉ほか	弥生時代～古墳時代、中世の遺物散布地(集落跡)	1992-1
土坑、ピット	サスカイト、石錐、須恵器、土師器、瓦器ほか	縄文時代・平安時代・中世の遺物散布地(集落跡?)	
(遺物包含層)	サスカイト、石錐、須恵器、土師器、黒色土器、土錐	縄文時代～古墳時代・中世の遺物散布地	1991-4
なし	サスカイト、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡)	1991-3

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
土坑(土塚)24	土師器、陶磁器、鉄釘、錢貨	近世墓 古墳・中世～近世の遺物散布地	1992-2
なし	サスカイト片、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器	弥生時代～古墳時代・中世の遺物散布地	1992-2
なし	須恵器、土師器、瓦質土器	古墳時代・中世の遺物散布地	1992-2

番号	調査別	標原町遺跡登録番号 奈良県遺跡登録番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
48	発掘調査	2-60 15-B-56	下井足城山古墳群 (1~3号墳)	標原町下井足 625-1	1991・5・21~ 1991・8・13	町道拡幅工事 (標原町)	535
49	発掘調査	1-115 (未登載)	萩原狐ヅカ遺跡	標原町萩原 919-1	1991・7・30~ 1991・8・23	宅地造成工事 (三見住宅株式会社ほか)	127.6
50	発掘調査	1-100 (未登載)	下井足カワタ遺跡 (2次調査)	標原町萩原 155,156	1991・9・4~	道路新設工事 (標原町)	110.9
					1991・9・30	農地造成工事 (個人)	
51	発掘調査	3-1・2 103-9・10	戎場遺跡	標原町戎場 268-1,269-1 371,372-1,372-2, 435-1,435-2	1991・10・23~ 1991・12・6	農地造成工事 (標原町)	360
52	測量調査	2-283~285 15-A-194 -195 -229	行者山古墳群 (1~3号墳)	標原町笠間 555,556,558	1991・12・21~ 1992・1・20	範囲確認調査 (標原町)	

1992(平成4)年度

番号	調査別	標原町遺跡登録番号 奈良県遺跡登録番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
53	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (3次調査)	標原町萩原元萩原 350ほか	1992・4・20~ 1992・6・12	宅地造成工事 (三和相互株式会社)	450.3
54	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (4次調査)	標原町萩原元萩原 479	1992・8・17~ 1992・8・29	地区公民館建設工事 (標原町)	70.9
55	発掘調査	2-641 (未登載)	山路蔽引地区	標原町山路 135-1,136	1992・10・22~ 1992・10・23	上水道配水池建設工事 (標原町)	31
56	発掘調査	2-544 15-D-84	沢遺跡 (4次調査)	標原町沢 1411-1	1992・11・17~ 1992・11・30	農業用倉庫建設工事 (個人)	16
57	発掘調査	2-355 -356 15-B-129 -130	高塚遺跡・廢塚 (3次調査)	標原町高塚 121	1992・11・30~ 1992・12・15	農業用倉庫建設工事 (個人)	6
58	発掘調査	2-645 (未登載)	殿垣内遺跡	標原町上井足 1199-7	1993・3・11~ 1993・3・12	個人住宅建設工事 (個人)	10

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
円墳3基、土坑、ピット	サヌカイト片、須恵器、土師器、鉄鏃、鐵刀子、瓦器、鐵貨	5世紀～6世紀の古墳(木棺直葬墳)群	1992-2
なし	土師器、鉄釘、鐵貨	平坦面(近世墓?)	1992-2
溝	須恵器、土師器、鉄釘	弥生時代～中世の遺物散布地	1992-2
土坑、溝、ピット	サヌカイト片、須恵器、土師器	1992-3	
掘立柱建物、溝、土坑、ピット	サヌカイト片、須恵器、土師器、瓦器、青磁	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地 平安時代の寺院跡?	1992-2
前方後円墳1基、円墳2基		5世紀～6世紀の古墳(木棺直葬墳)群	1992-2

調査概要		遺跡概要	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
自然谷地形(自然流路)	サヌカイト、瑪瑙、共生土器、須恵器、土師器、黒色土器、墨青土器、灰陶土器、灰釉陶器、瓦器、瓦、ファイゴ羽口、鐵質(和銅器類、錫平大賞、實平大賞)、鐵釘、木製品(木柵、下駄、曲物ほか)、自然遺物(種子、鳥骨)ほか	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡?)	1993-2
溝1	須恵器、土師器	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡?)	1993-2
土坑1	なし		1993-2
ピット2、土坑1、溝4、焼土坑1	須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器ほか	縄文時代～古墳時代、中世の遺物散布地(集落跡)	1993-1
溝1	須恵器、土師器、瓦器	弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地(集落跡)	1993-1
なし	瓦器	中世の遺物散布地	1993-1

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
59	立会調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡	榛原町萩原元萩原 200-1、201	1992・6・17	駐車場造成工事 (個人)	
60	立会調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡	榛原町萩原元萩原 585-586	1992・8・18	資材置場造成工事 (個人)	
61	立会調査	3-1・2 103-9-10	城塁遺跡	榛原町城塁 818-2	1993・3・1	製造改善センター建設工事 (榛原町)	
62	測量調査	1-18 12-D-6	南山古墳 (1次調査)	榛原町萩原元小西 1868-1	1992・12・24～ 1993・2・18	範囲確認調査 (榛原町)	

1993(平成5)年度

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
63	発掘調査	1-15 12-D-34	岩尾火葬墓葬接地	榛原町萩原 2741-144	1993・5・12～ 1993・5・25	無線塔建設工事 (関西セラーラ 電話株式会社)	50
64	発掘調査	2-212～ 2-220 15-B-91 15-B-92	様楽向山古墳群	榛原町様楽 41-2他	1993・6・22～ 1993・10・31	農道建設工事 (大字陀町)	820
65	発掘調査	3-46 103-46	桧牧遺跡 (3次調査)	榛原町桧牧 2107-4	1993・9・20～ 1994・1・13	公園造成工事 (榛原町)	800
66	発掘調査	3-18 (未登載)	山辺三マルズカ遺跡	榛原町山辺三 317・332	1993・9・24～ 1993・9・30	公園造成工事 (榛原町)	152
67	発掘調査	4-5 (未登載)	自明廣田遺跡	榛原町自明 1356	1993・11・15	農地造成工事 (個人)	12
68	発掘調査	2-546 15-D-90	下城・馬場遺跡 (2次調査)	榛原町沢 1292・1293	1994・1・18～ 1994・3・18	農地改良工事 (個人)	195

調査概要		文献番号 (表3)
遺構	遺物	
なし	なし	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡?) 本書
なし	なし	縄文時代～中世の遺物散布地(集落跡?) 本書
なし	なし	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地 平安時代の寺院跡 本書
		飛鳥時代の磚積石室墳 1993-1

調査概要		文献番号 (表3)
遺構	遺物	
なし	砥石(近代?)1点	奈良時代の墳墓 隣接地 1994-2
1号墳-円墳、削竹形木棺1、土器棺 2号墳-椿円形墳、削竹形木棺2 7号墳-円墳、周溝 8号墳-円墳?、箱形木棺1 9号墳-円墳、周溝	1号墳-須恵器、土師器、鉄錆、鉄刀子、弥生土器ほか 2号墳-須恵器、土師器、鉄錆、鉄刀子、玉類ほか 7号墳-須恵器、土師器ほか 8号墳-須恵器、金環、鉄錆 9号墳-須恵器、土師器ほか	5世紀後葉～6世紀前葉の古墳群(11基) 1994-2
土坑、ピット、石列ほか	サヌカイト、弥生土器、須恵器、 土師器、瓦器、鉄釘、鉄斧ほか	縄文時代～中世の遺物散布地 1994-2
なし	サヌカイト、弥生土器、須恵器、 土師器、瓦器、陶器ほか	弥生時代、古墳時代、中世の遺物散布地 1994-2
なし	なし	縄文時代・中世の遺物散布地 1994-1
養石建物、掘立柱建物、土坑、ピット、洗	サヌカイト、須恵器、瓦器、土師器、陶磁器、錢貨、鉄釘、犬形土製品、銅製品ほか	縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺物散布地 中世の居館跡 1994-1

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
69	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (5次調査)	榛原町下井足 46-1、47	1994・2・14～ 1994・2・28	店舗建設工事 (権藤サン商店株式会社)	70
70	発掘調査	1-18 12-D-6	南山古墳 (3次調査)	榛原町萩原元玉小西 1868-1	1994・3・14～ 1994・3・29	範囲確認調査 (榛原町)	27
71	立会調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡	榛原町萩原元玉萩原 344、345	1993・4・9	農地造成工事 (個人)	
72	立会調査	4-23 105-3	八瀧長坂遺跡	榛原町八瀧 1125ほか13筆	1994・3・4	農地改良工事 (個人)	

1994(平成6)年度

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
73	発掘調査	3-46 103-46	桧牧遺跡 (3次調査)	榛原町桧牧 2107-4	1994・5・10～ 1994・10・26	公園造成工事 (榛原町)	1392
74	発掘調査	1-123 (未登載)	長峯柿本遺跡	榛原町長峯 200	1994・7・25～ 1994・8・12	特別養護老人ホ ーム建設工事 (社会福祉法人 豊生会)	87
75	発掘調査	4-26 105-5	内牧ウツキナワテ遺跡	榛原町内牧 349、351、353、 365、366、368～ 370、372	1994・7・19～ 1994・10・26	農地造成工事 (榛原町)	1493.2
76	発掘調査	4-29 105-8	内牧井ノ上遺跡	榛原町内牧 1948-1、1963、 1964、1965、1951	1994・11・10～ 1994・11・21	農地造成工事 (榛原町)	219.8
77	発掘調査	4-3 103-51	坊ノ浦遺跡	榛原町自明 151	1994・11・4～ 1994・11・7	水田形状変更 (個人)	9
78	発掘調査	2-216 15-B-91	榛原向山7号墳	榛原町榛原 41-2	1994・11・14～ 1994・11・24	農道造成工事 (大字蛇町)	80
79	発掘調査	1-222 (未登載)	榛原アサマ遺跡 (2次調査)	榛原町榛原 38	1995・1・10	駐車場造成工事 (個人)	6.3
80	発掘調査	1-18 12-D-6	南山古墳 (3次調査)	榛原町萩原元玉小西 1868-1	1994・12・21～ 1995・3・30	範囲確認調査 (榛原町)	73

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
なし	須恵器、黒色土器、土師器	縄文時代～中世の遺物散布地	1994-2
(墳丘盛土)	須恵器、土師器	飛鳥時代(7世紀)の磚積石室墳	1994-1
なし	なし	縄文時代～中世の遺物散布地	本書
なし	なし	縄文時代～中世の遺物散布地	本書

調査概要		遺跡概要 (表3)	文献番号 (表3)
遺構	遺物		
石組造構、土坑、ピット	サヌカイト、石巖、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鉄刀子、鉄釘、鐵斧、砥石ほか	縄文時代～中世の遺物散布地・集落跡	1995-3
火葬墓1	須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、青磁、鉄刀、鉄釘、錢貨	古墳時代・中世の遺物散布地・平安時代の墳墓	1995-3
獨立柱建物、土坑、溝、ピット	サヌカイト、石巖、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鉄釘、鐵錆、鐵斧、錢貨ほか	縄文時代～中世の遺物散布地、平安時代～中世の集落跡	
土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器ほか	縄文時代～中世の遺物散布地	
なし	須恵器、土師器、瓦器	縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地	1995-1
(墳丘盛土)	須恵器、土師器、紡錘車	5世紀後葉～6世紀前葉の古墳群(11基)	
なし	土師器	弥生時代～古墳時代、中世の遺物散布地(集落跡)	1995-1
方墳 外腰列石(墳丘盛土)	須恵器、土師器、瓦器ほか	飛鳥時代(7世紀)の磚積石室墳	1995-1

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号 奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (原因者)	調査面積 (m ²)
81	発掘調査	2-546 15-D-90	下城・馬場遺跡 (3次調査)	榛原町沢 1292	1995.2.20～ 1995.3.30	農地改良工事 (個人)	90
82	発掘調査	1-98 15-B-8	丹切遺跡 (6次調査)	榛原町荻原 306	1995.2.7	寺院増築工事 (法清寺)	10
83	立会調査	2-300 15-B-8	笠間所在遺跡 (仮称)	榛原町笠間 2414-1	1994.12.16	農業用倉庫建設工事 (個人)	
84	立会調査	4-3 103-51	坊ノ浦遺跡	榛原町自明 137-1	1994.12.21	個人駐車場 (個人)	

調査概要		文献番号 (表3)
遺構	遺物	
礎石柱建物、土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、鐵質、鐵釘、鐵錠、鐵製品、ガラス洋、フィゴ羽口、石臼、砥石、大形土製品、瓦ほか	縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺物散布地 中世の居跡跡 1995-1
(自然谷地形)	須恵器、土師器、製塩土器	縄文時代～中世の遺物散布地
なし	なし	古墳時代の遺物散布地 本書
なし	なし	縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地 本書

表3 横原町教育委員会発行埋蔵文化財関係文献一覧表

文献番号	文 獻 名
1974-1	網干善教・小泉俊夫『谷畠古墳』 関西大学考古学研究室編 1974
1974-2	伊藤勇輔他『大王山遺跡—調査の概要—』 奈良県立横原考古学研究所編 1974
1977-1	伊藤勇輔他『大王山遺跡』 奈良県立横原考古学研究所編 1977
1982-1	泉森鉱他『文神麻呂墓発掘調査概要』 奈良県立横原考古学研究所編 1982
1985-1	柳澤一宏『下城・馬場遺跡』(横原町文化財調査報告第1集) 1985
1986-1	松田真一・柳澤一宏他『神木坂古墳群』(横原町文化財調査報告第2集) 1986
1986-2	柳澤一宏『丹切遺跡発掘調査概要』(横原町文化財調査概要 1) 1986
1987-1	柳澤一宏『横原町遺跡分布調査概要』(横原町文化財調査概要 2) 1987
1988-1	柳澤一宏『神木坂古墳群II』(横原町文化財調査報告第3集) 1988
1989-1	柳澤一宏『神木坂古墳群III』(横原町文化財調査報告第4集) 1989
1989-2	柳澤一宏『高塚遺跡第2次発掘調査概要報告書』(横原町文化財調査概要 3) 1989
1990-1	柳澤一宏『赤堀下志明道遺跡発掘調査報告書』(横原町文化財調査報告第5集) 1990
1990-2	柳澤一宏『内牧カラト遺跡発掘調査報告書』(横原町文化財調査報告第6集) 1990
1990-3	柳澤一宏『大貝古墳群発掘調査報告書』(横原町文化財調査概要 4) 1990
1991-1	柳澤一宏『大貝ヒジキ山遺跡発掘調査報告書』(横原町文化財調査報告第7集) 1991
1991-2	柳澤一宏『西谷古墳群発掘調査報告書』(横原町文化財調査報告第8集) 1991
1991-3	柳澤一宏他『横原町内遺跡発掘調査概要報告書 1990年度』(横原町文化財調査概要 5) 1991
1991-4	柳澤一宏他『赤瀬遺跡発掘調査概要報告書』(横原町文化財調査概要 6) 1991
1992-1	柳澤一宏『猿樂アサマ遺跡発掘調査報告書』(横原町文化財調査報告第9集) 1992
1992-2	柳澤一宏『横原町内埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1991年度』(横原町文化財調査概要 7) 1992
1992-3	柳澤一宏『横原町内遺跡発掘調査概要報告書 1991年度』(横原町文化財調査概要 8) 1992
1993-1	柳澤一宏『横原町内遺跡発掘調査概要報告書 1992年度』(横原町文化財調査概要 9) 1993
1993-2	柳澤一宏『横原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1992年度』(横原町文化財調査概要 10) 1993
1994-1	柳澤一宏『横原町内遺跡発掘調査概要報告書 1993年度』(横原町文化財調査概要 11) 1994
1994-2	柳澤一宏『横原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1993年度』(横原町文化財調査概要 12) 1994
1994-3	柳澤一宏『横原町遺跡分布地図 1993年度』(横原町文化財調査概要 13) 1994
1995-1	柳澤一宏『横原町内遺跡発掘調査概要報告書 1994年度』(横原町文化財調査概要 14) 1995
1995-2	柳澤一宏『横原町遺跡調査集I』(横原町文化財調査概要 15) 1995
1995-3	柳澤一宏『横原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1994年度』(横原町文化財調査概要 16) 1995

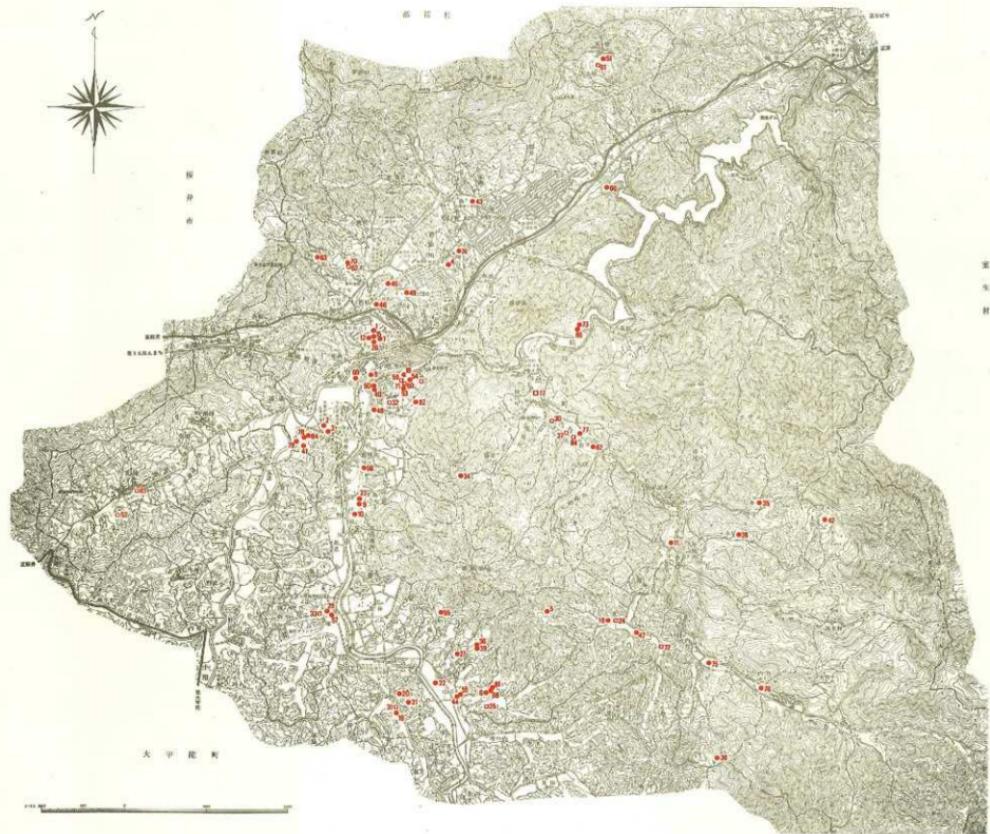


図2 調査遺跡位置図（番号は表2と一致）

III 発掘調査概要

1 八瀧家ノ前遺跡

遺跡名	八瀧家ノ前遺跡（榛原町遺跡地図番号 4-22、奈良県遺跡地図番号 105-2）
調査地	奈良県宇陀郡榛原町大字八瀧983、984番地
遺跡立地	標高約490～510mの尾根斜面
遺跡規模	南北約70m、東西約220m
時代・種別	中世の遺物散布地
調査原因	農地造成工事（事業主体：榛原町）
現地調査期間	1987年2月10日
調査面積	22m ²
検出遺構	なし
検出遺物	土師器
調査概要	

狭隘な谷部に面した尾根南斜面の水田、畑地を中心に遺跡が立地する。この遺跡西半の水田が圃場整備工事の範囲に含まれることとなつたため、2箇所にトレッチを設定した(図3・4)。

基本層序は第1層の耕作土、第2層の灰茶色土、第3層の黄灰色粘土、第4層の淡青灰色粘土の4層に大別できる。壁面が軟質で湧水も著しいことから、深さ1.8mまで掘り下げ作業を行つたに

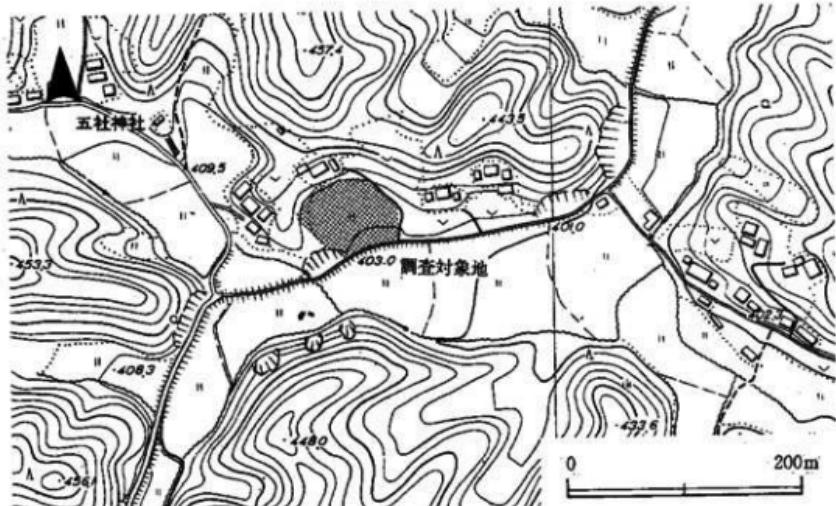


図3 八瀧家ノ前遺跡位置図

すぎず、基盤層（地山面）を確認していない（図5）。第2層と第4層から中世の土師皿の細片が出土のみで明確な遺構は認められない。

調査地は自然谷地形の埋没部分と考えられる。

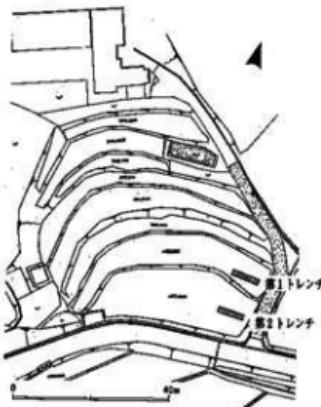


図4 八滝家ノ前遺跡調査位置図

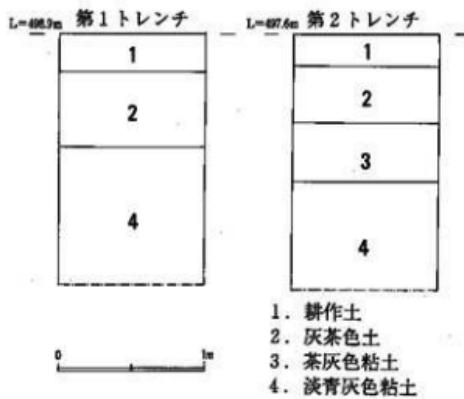


図5 八滝家ノ前遺跡柱状土層断面図

2 丹切遺跡（第2次）

遺跡名	丹切遺跡（橿原町遺跡地図番号 1-98、奈良県遺跡地図番号 15-B-8）
調査地	奈良県宇陀郡橿原町大字萩原 元萩原177-1
遺跡立地	標高約306~330mの尾根上・谷部・河岸段丘
遺跡規模	南北約700~800m、東西約300~400m
時代・種別	縄文時代~中世の遺物散布地
調査原因	宅地造成工事（事業主体：三和相互株式会社）
現地調査期間	1987年7月17日
調査面積	34m ²
検出遺構	なし
検出遺物	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器
調査概要	

事業予定地内の水田に2箇所のトレンチを設定し、東を第1トレンチ、西を第2トレンチとした（図6・7）。

第1トレンチの基本層序は第1層の耕作土の直下が橙茶色砂質土の地山となる。地山面の精査を



図6 丹切遺跡（第2次）位置図

行ったが、明確な遺構・遺物等は認められない。

第2トレンチの基本層序は第1層の耕作土、第2層の青灰色粘土、第3層の暗青灰色粘土、第4層の黒灰色粘土、第5層の暗灰褐色砂礫（地山）からなる（図8）。第2層から第4層にかけて弥生土器、須恵器、中世の土師器、瓦器等の細片、自然木が出土している。調査地は自然谷地形が埋没したものと考えられる。

すでに遺跡の大半は土木工事等の開発が進み、その全容把握が困難となりつつあるが、残っている水田を中心に今後も調査を重ねていく必要がある遺跡である。

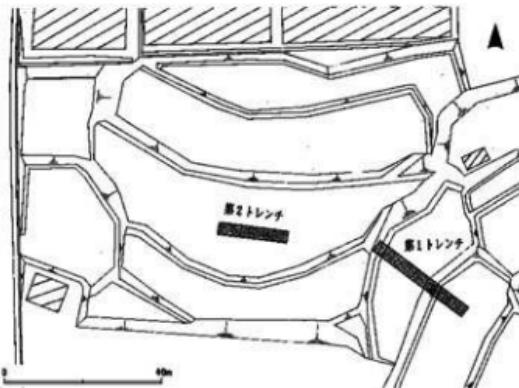


図7 丹切遺跡（第2次）調査位置図

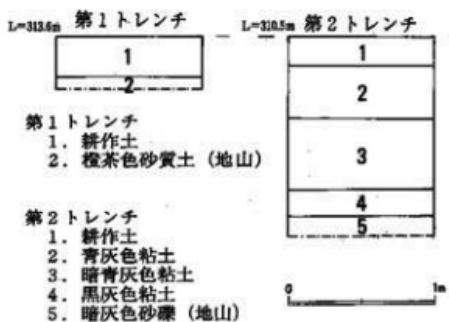


図8 丹切遺跡（第2次）柱状土層断面図

3 母里遺跡群

母里遺跡、母里イモリ遺跡、母里シバノタニ遺跡の3遺跡を含む約2.5haの範囲において、圃場整備工事が計画されたため、発掘調査を実施した。これらの3遺跡を本項では「母里遺跡群」と総称することとし、事業予定地内において適宜、10箇所のトレンチ調査を実施したものである。なお、トレンチ名は、整理の都合上、調査時の呼称を用いている（図9・10）。

(1) 母里遺跡

遺 跡 名 母里遺跡（橿原町遺跡地図番号 2-485、奈良県遺跡地図番号 15-D-184）

調 査 地 奈良県宇陀郡橿原町大字母里149、252-1、254番地

遺 跡 立 地 標高約325～335mの河岸段丘・谷

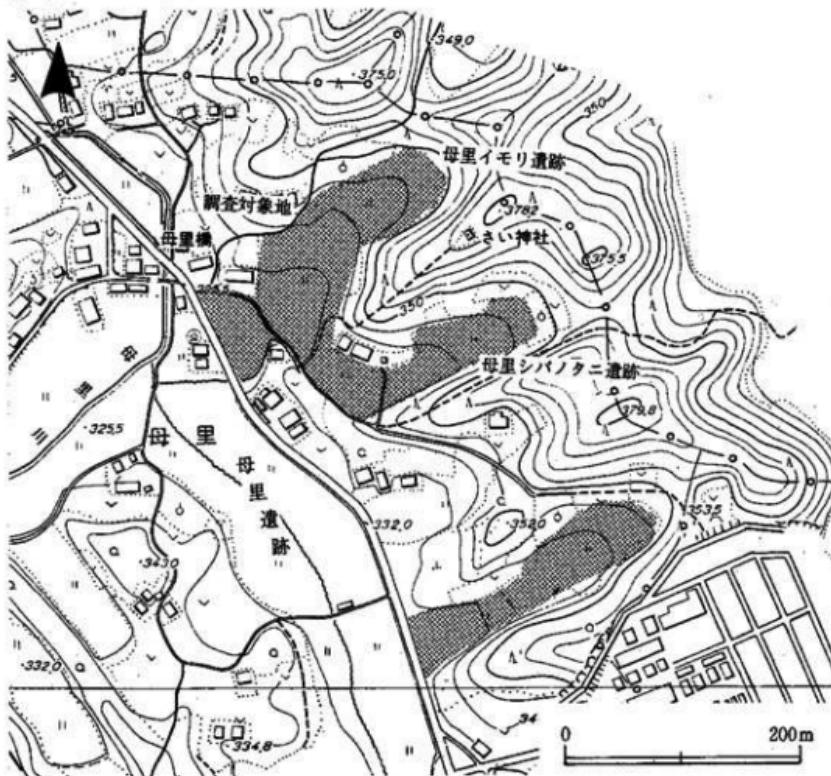
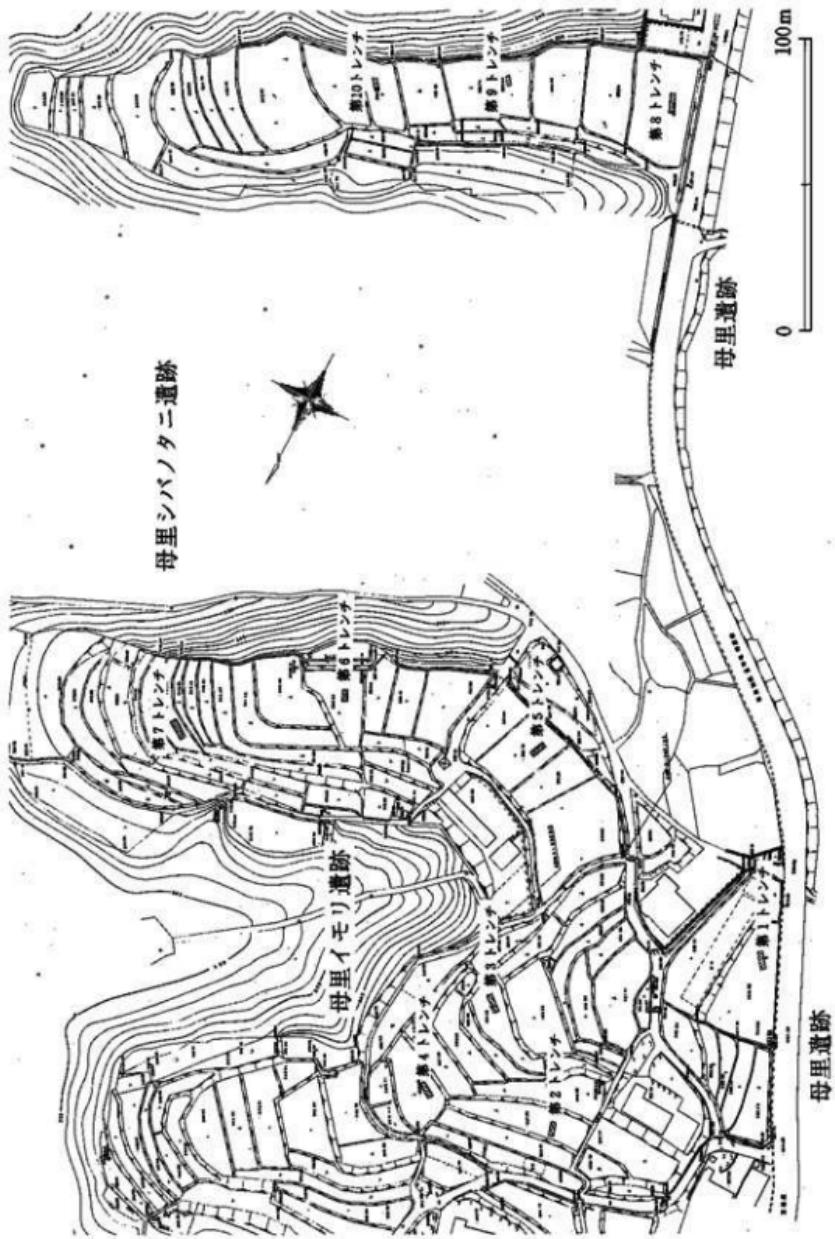


図9 母里遺跡群位置図

図10 母里遺跡群調査位置図



遺跡規模 南北約500m、東西約500m
 時代・種別 弥生時代・古墳時代・中世の遺物散在地
 調査原因 農地造成工事（事業主体：株原町）
 現地調査期間 1987年12月15日～12月21日
 調査面積 37m²
 検出遺構 なし
 検出遺物 なし
 調査概要

第1トレンチの基本層序は第1層が耕作土、第2層が灰色粘土、第3層が暗灰色粘土、第4層が淡灰色砂、第5層が黒灰色粘土、第6層が暗灰色砂、第7層が暗灰色粘土となっている。明確な遺構・遺物は認められない。第8トレンチ～第10トレンチの基本層序は第1層が耕作土、第2層が淡黄茶色砂質土・淡茶色粘質土・茶灰色粘質土・橙灰色粘質土、第3層が暗灰色粘土、第4層が黒灰色粘土となっている。第10トレンチの第3層から12世紀代の瓦器片が出土しているが、明確な遺構は認められない。調査地は自然谷地形の埋没と考えられる（図11）。

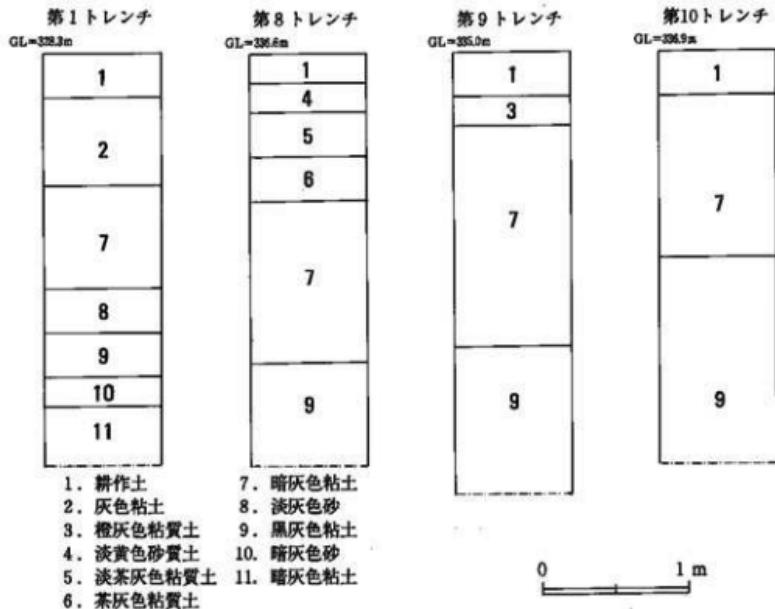


図11 母里遺跡柱状土層断面図

(2) 母里イモリ遺跡

遺 跡 名 母里イモリ遺跡（株原町遺跡地図番号 2-496、奈良県遺跡地図番号 未登載）
 調 査 地 奈良県宇陀郡株原町大字母里64-2、89-1、91-2番地
 遺 跡 立 地 標高約330～340mの谷
 遺 跡 規 模 南北約60m、東西約100m
 時 代・種 別 中世の遺物散布地
 調 査 原 因 農地造成工事（事業主体：株原町）
 現地調査期間 1987年12月15日～12月21日

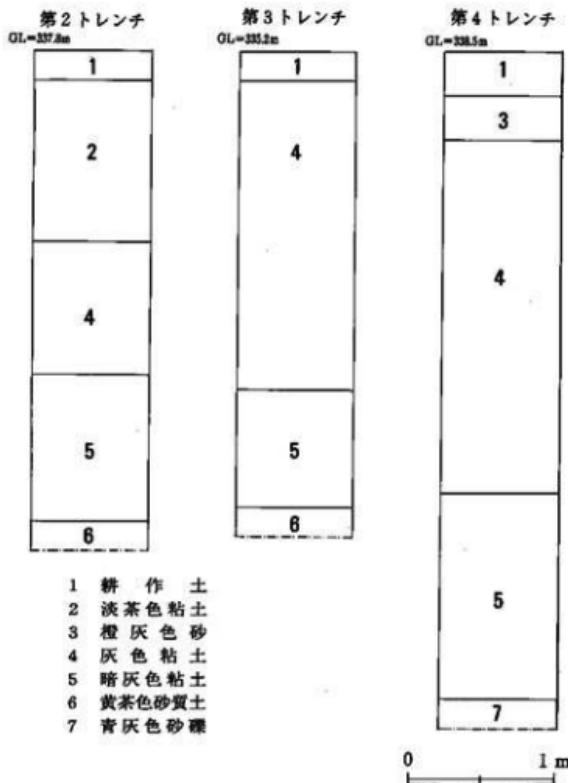


図12 母里イモリ遺跡柱状土層断面図

調査面積 24m²

検出遺構 なし

検出遺物 瓦器

調査概要

第2トレンチ～第4トレンチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が淡茶色粘質土・橙灰色砂、第3層が灰色粘土、第4層が暗灰色粘土、第5層が黄茶色砂質土・青灰色砂疊となっている(図12)。第3・4トレンチの灰色粘土からは12世紀前葉から中葉と考えられる瓦器細片が出土しているが、明確な遺構は認められない。遺跡西半の住宅周辺は寺院跡(近世?)との伝承があるが、調査地は自然谷地形の埋没と考えられる。

(3) 母里シバノタニ遺跡

遺跡名 母里シバノタニ遺跡(様原町遺跡地図番号 2-498、奈良県遺跡地図番号 未登載)

調査地 奈良県宇陀郡様原町大字母里120、123、134番地

遺跡立地 標高約340～350mの谷

遺跡規模 南北約100m、東西約80m

時代・種別 中世の遺物散布地

調査原因 農地造成工事(事業主体: 様原町)

現地調査期間 1987年12月15日～12月21日

調査面積 34m²

検出遺構 なし

検出遺物 陶器

調査概要

第5トレンチ～第7トレンチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が茶灰色粘質土・淡茶色粘質土、3層が灰色粘土、第4層が暗灰色粘土、第5層が黒灰色粘土、第6層が黄灰色粘土、第7層が黄灰色砂となっている(図13)。第7トレンチの暗灰色粘土と黄灰色粘土からは中世の瓦器、土師器等の細片が出土しているが、明確な遺構は認められない。調査地は自然谷地形の埋没と考えられる。

第7トレンチの黄灰色粘土からは陶器碗が出土しており、復元口径10.4cm、高台径4.3cm、器高3.9cmをはかり、色調は灰白色である。(図14)。

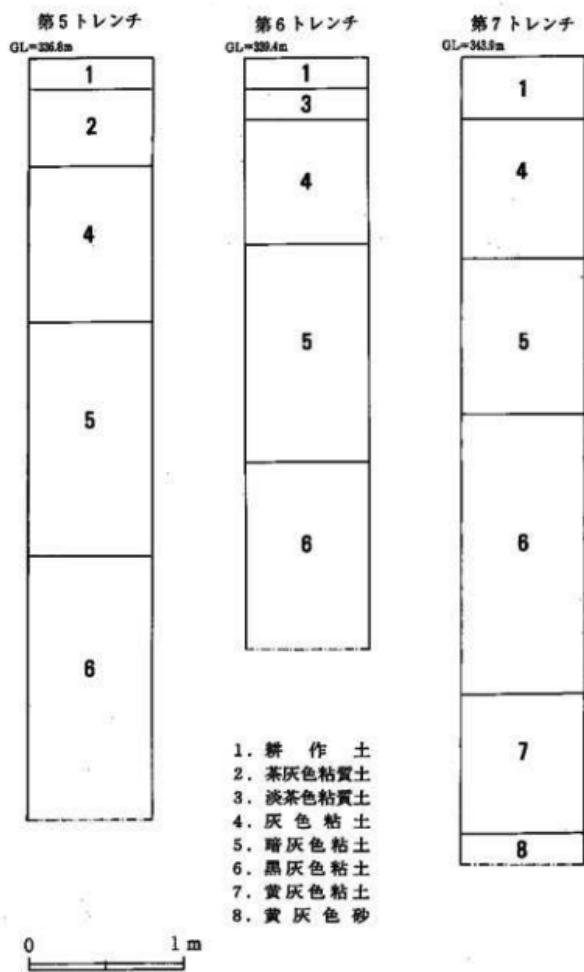


図13 母里シバノタニ遺跡柱状土層断面図

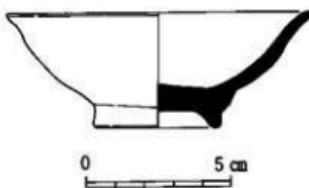


図14 母里シバノタニ遺跡出土遺物実測図

4 沢遺跡隣接地

調査地名	沢遺跡隣接地
調査地	奈良県宇陀郡橿原町大字沢、大貝、山路
調査地立地	標高約325~330mの低地
調査原因	農地造成工事（事業主体：橿原町）
現地調査期間	1987年12月17日~1987年12月18日
調査面積	126m ²
検出遺構	なし（芳野川の氾濫原）
検出遺物	土師器

調査概要

沢遺跡は、縄文時代から中世の遺物が散布しており、縄文時代から弥生時代の集落跡、中世の城館跡と考えられる。事業予定地は、この沢遺跡の北西に隣接する水田地域で、遺跡の範囲を確認するため、7箇所にトレンチを設定した。各トレンチの概要是次のとおりである（図15・16）。

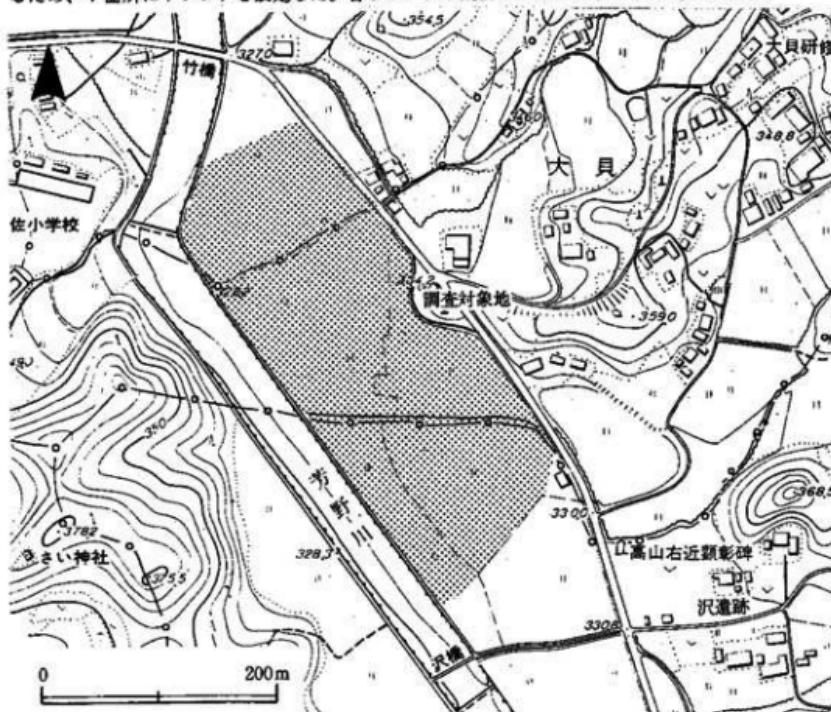
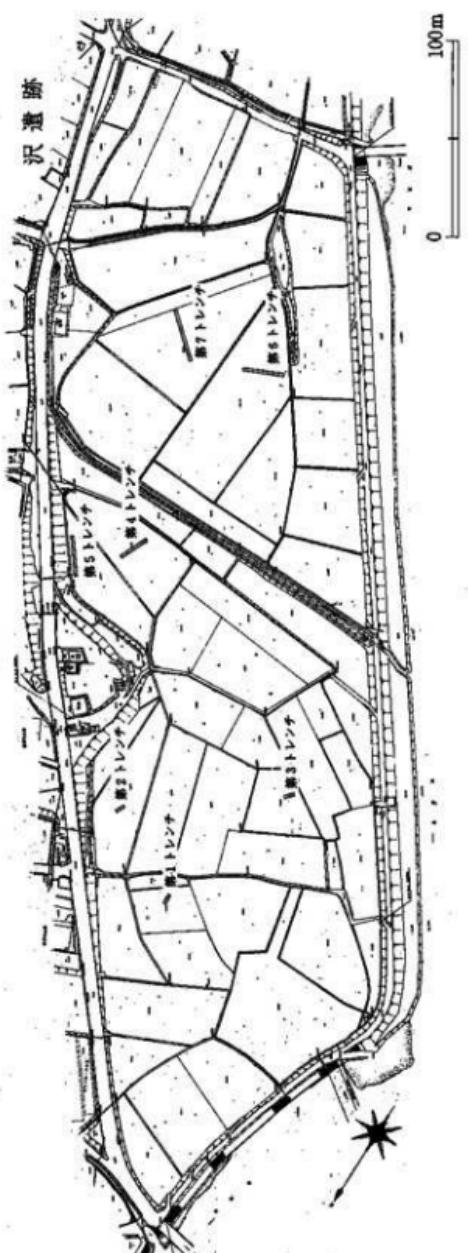


図15 沢遺跡隣接地位置図

図16 沢遺跡隣接地調査位置図



第1トレーニチ・第2トレーニチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙灰色粘質土・灰色粘質土、第3層が淡茶色砂質土、第4層が黄茶色砂礫である。明確な造構・遺物は認められない。

第3トレーニチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙灰色粘質土、第3層が茶灰色粘質土、第4層が黄茶色砂礫である。

第4トレーニチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙灰色粘質土、第3層が茶灰色粘質土、第4層が茶色土、第5層が淡茶色砂礫、第6層が灰色粘土、第7層が黄茶色砂礫である。

第5トレーニチ・第6トレーニチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙灰色粘質土、第3層が黄茶色砂礫である。

第7トレーニチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙灰色粘質土、第3層が淡茶色砂質土、第4層が灰色粘土、第5層が黄茶色砂礫である。第5層から土師皿細片が出土したものの明確な造構は認められない。

以上のとおり、明確な造構・顕著な遺物は認められず、調査対象地の水田は芳野川の氾濫原と考えられる。沢遺跡の西端は、調査結果および地形から現在の南北方向の町道より西側へは広がらないと考えられる。

第1トレーニチ

1
2
4
9

第2トレーニチ

1
3
4
9

第3トレーニチ

1
2
5
9

第4トレーニチ

1
2
5
6
7
8
9

第5トレーニチ

1
2
9

第6トレーニチ

1
2
9

第7トレーニチ

1
2
4
9

1. 耕作土
2. 橙灰色粘質土
3. 灰色粘質土
4. 淡茶色砂質土
5. 茶灰色粘質土
6. 茶色土
7. 淡茶色砂礫
8. 灰色粘土
9. 黄茶色砂礫

図17 沢遺跡隣接地柱状土層断面図

IV 立会調査概要

1 桧牧市場遺跡

遺跡名	桧牧市場遺跡（榛原町遺跡地図番号 1-67、奈良県遺跡地図番号 未登載）
調査地	奈良県宇陀郡榛原町大字桧牧
遺跡立地	標高約299~330mの河岸段丘
時代・種別	中世の遺物散布地
調査原因	農地造成工事（事業主体：榛原町）
現地調査期間	1986年12月2日・12月18日、1987年2月19日
立会面積	77m ²
検出遺構	なし
出土遺物	土師器

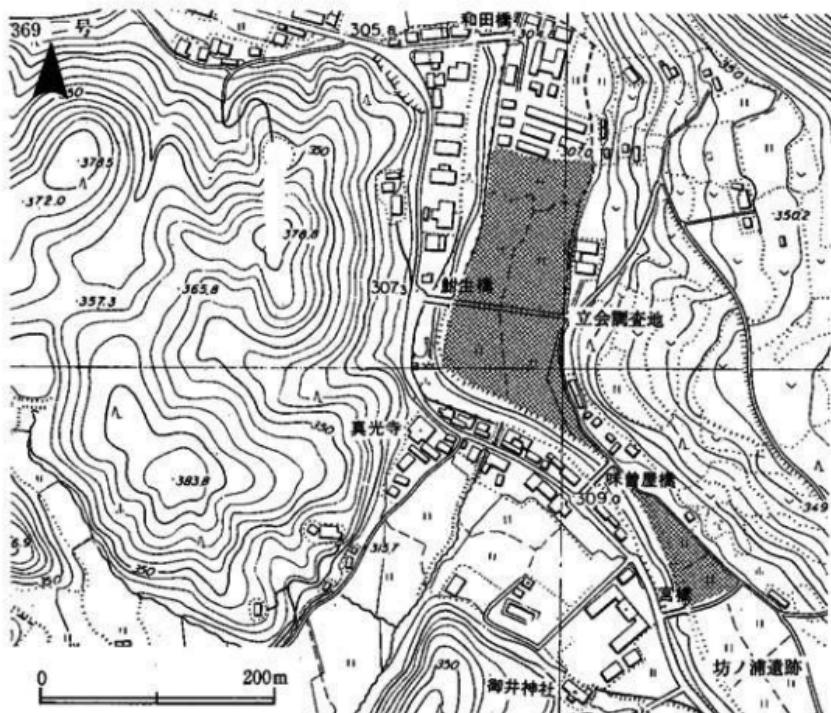


図18 桧牧市場遺跡調査位置図(1)

調査概要

内牧川右岸の河岸段丘上の水田部分において、5箇所の立会調査を実施した(図18・19)。

第1トレンチ～第3トレンチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が黄灰色粘質土、第3層が黄茶色粘質土、第4層が黄色砂質土、第5層が淡茶色砂礫となっている。第2層からは土器細片が出土したのみで、明確な遺構は認められない。

第4トレンチの基本層序は、第1層が耕作土、第2層が黄灰色粘質土、第3層が黒灰色粘質土、

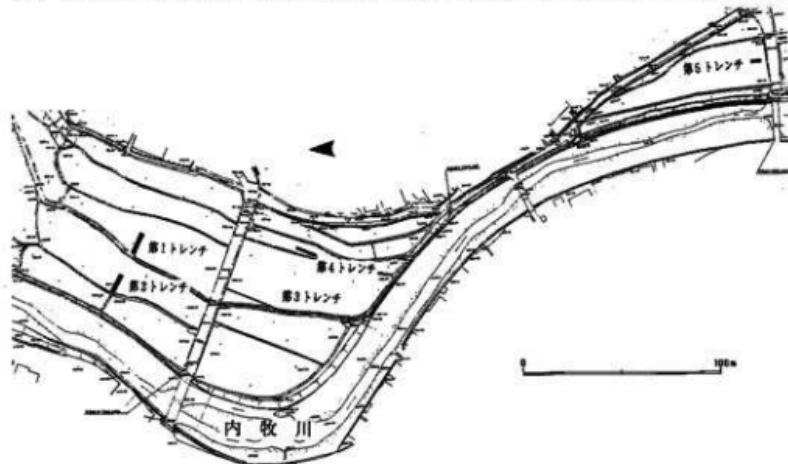


図19 檜牧市場遺跡調査位置図(2)

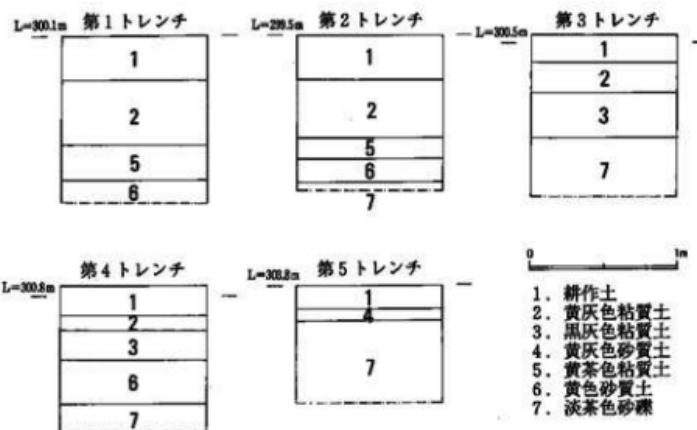


図20 檜牧市場遺跡柱状土層断面図

第4層が黄色砂質土、第5層が淡茶色砂礫となっている。第3層からは土器器細片が出土したのみで、明確な遺構は認められない。

第5トレンチは、本来、「坊ノ浦遺跡」と呼称すべきであるが、調査の都合上、本項に含めておく。基本層序は第1層が耕作土、第2層が黄灰色砂質土、第3層が淡茶色砂礫となっている。明確な遺構・遺物は認められない。

2 八瀬家ノ前遺跡

遺 跡 名	八瀬家ノ前遺跡（株原町遺跡地図番号 4-22、奈良県遺跡地図番号 105-2）
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字八瀬981番地
遺 跡 立 地	標高約490～510mの尾根斜面
遺 跡 規 模	南北約70m、東西約220m
時 代 ・ 種 別	平安時代～中世の遺物散布地
調 査 原 因	農地造成工事（事業主体：個人）
現地調査期間	1987年7月23日
立 会 面 積	2000m ² （工事面積）
検 出 遺 構	落ち込み状遺構
出 土 遺 物	須恵器、黒色土器、瓦器、土器器



図21 八瀬家ノ前遺跡調査位置図(1)

調査概要

1987年2月に実施した発掘調査地の東隣において個人が同年4月10日から11日にかけて農地造成工事を先行実施したため、「埋蔵文化財発掘届」の提出を求め、北側法面において土層断面観察・遺物の有無を確認する立会調査を実施した（図21・22）。

工事地の北半は掘削され、その土砂を南半に盛土した状況であった。工事地の東側には、比較的多くの中世土器片が散布しており、その北側法面には中世土器を含んだ落ち込み状遺構が認められる。落ち込み状遺構は、断面観察で東西幅約10～12m、深さ1m以上を確認でき、埋土は上層がやや粘質の暗灰色土、下層が炭片を含む暗灰色粘質土となっており、12世紀前葉～中葉の瓦器や土師器の細片が出土している（図23）。

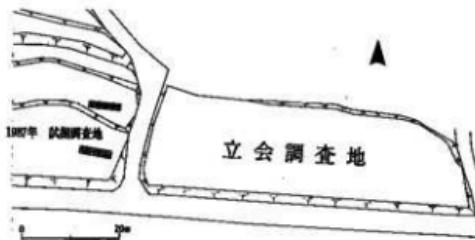


図22 八瀧家ノ前遺跡調査位置図(2)

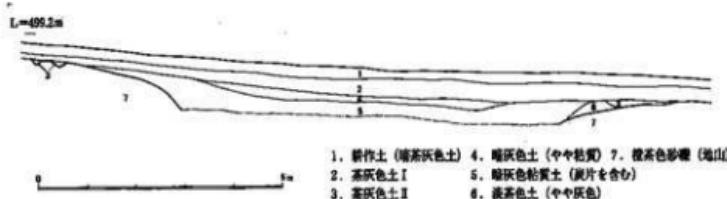


図23 八瀧家ノ前遺跡東端土層断面図

3 沢カジヤ谷地区

地 区 名 沢カジヤ谷地区
調査地 奈良県宇陀郡株原町大字沢686-1、687-1、688-1番地
地 区 立 地 標高約345mの谷
調査原因 個人住宅建設工事（事業主体：個人）
現地調査期間 1988年2月10日
立会面積 18m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査概要

古墳時代・中世を中心とする野山遺跡群（古墳群）に隣接する谷部分に相当するため立会調査を実施した。整地土下は、水田耕作土となっており、明確な遺構・遺物は認められない（図24）。

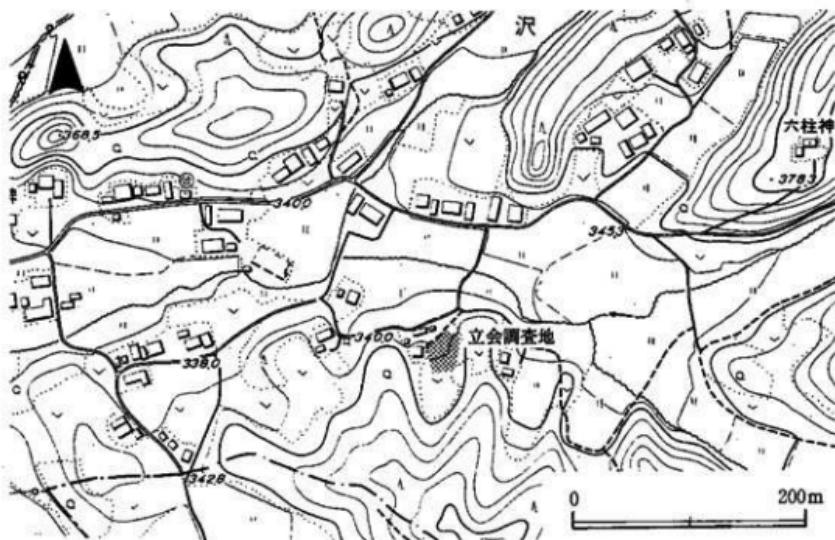


図24 沢カジヤ谷地区調査位置図

4 坊ノ浦遺跡

遺 跡 名 坊ノ浦遺跡（株原町遺跡地図番号 4-3、奈良県遺跡地図番号 103-51）
調査地 奈良県宇陀郡株原町大字自明・桧牧

遺跡立地	標高約310~320mの河岸段丘
遺跡規模	南北約150m、東西約600m
時代・種別	縄文時代、平安時代~中世の遺物散布地
調査原因	河川改修工事(事業主体:奈良県)
現地調査期間	1988年6月16日、1989年2月3日、1990年2月2日
立会面積	1000m ² (工事面積)
検出遺構	なし
検出遺物	土器器
調査概要	

内牧川右岸の拡張に伴う立会調査を3回にわたって実施した(図25・26)。基本層序は、第1層が耕作土、第2層が橙茶色粘質土、第3層が灰褐色粘質土、第4層が淡黄茶色砂質土・暗褐色砂質土、第5層が赤褐色砂疊、第6層が黒色砂疊となっている。第4層上面が遺構面と推定される。

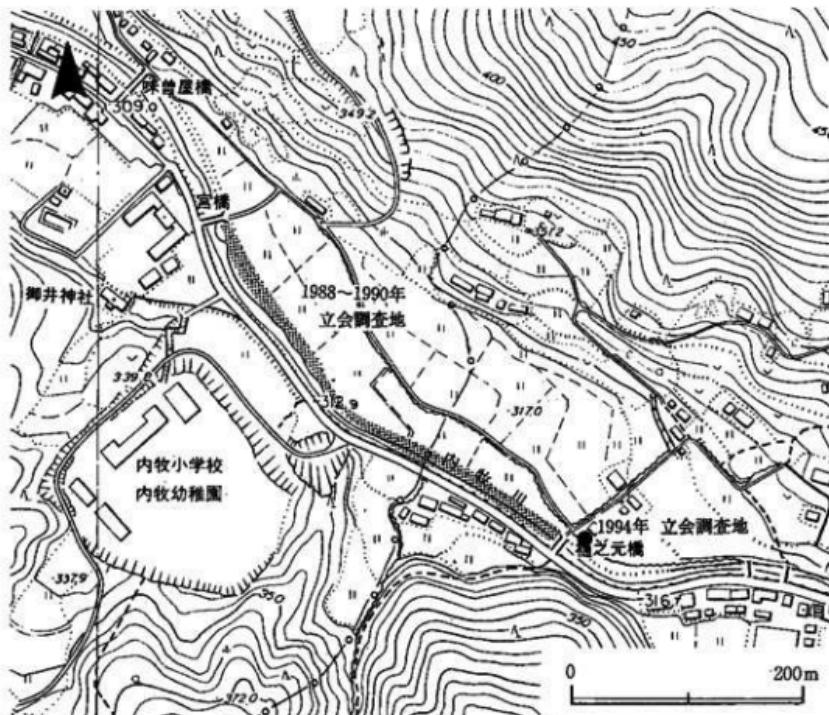


図25 坊ノ浦遺跡調査位置図

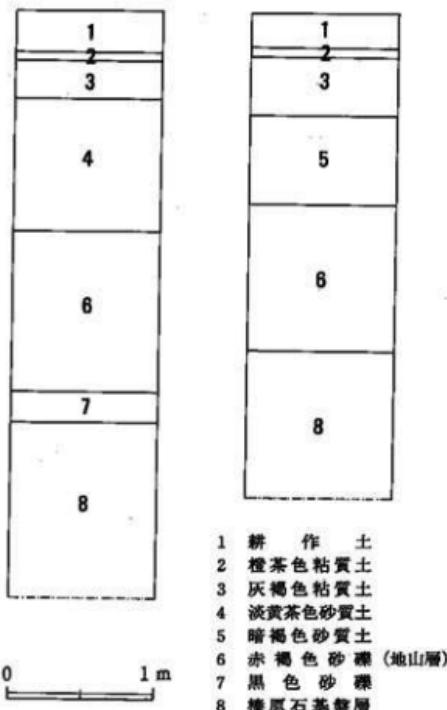


図26 坊ノ浦遺跡柱状土層断面図

5 坊ノ浦遺跡 (図25)

遺跡名	坊ノ浦遺跡 (棕原町遺跡地図番号 4-3、奈良県遺跡地図番号 103-51)
調査地	奈良県宇陀郡棕原町大字自明137-1番地
遺跡立地	標高約310~320mの河岸段丘
遺跡規模	南北約150m、東西約600m
時代・種別	縄文時代、平安時代~中世の遺物散布地
調査原因	駐車場造成工事 (事業主体:個人)
現地調査期間	1994年11月4日
立会面積	311m ² (工事面積)
検出遺構	なし

検出遺物 なし
調査概要 盛土作業の立会

6 丹切古墳群(図27)

遺跡名 丹切古墳群
調査地 奈良県宇陀郡株原町大字下井足
調査原因 グランド整備工事(事業主体:奈良県)
現地調査期間 1988年11月22日

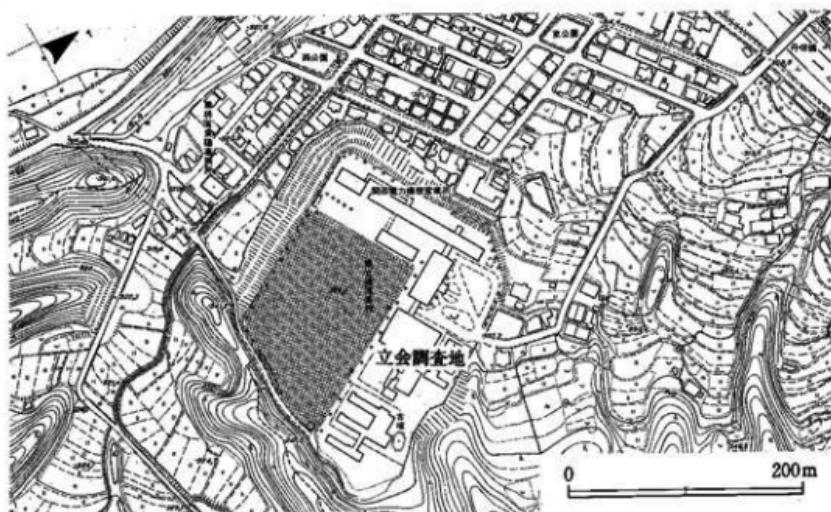


図27 丹切古墳群調査位置図

立会面積 14215m²(工事面積)

検出遺構 なし

検出遺物 なし

調査概要

すでに県立株原高等学校の敷地造成の際に発掘調査が実施されている。グランド整地土下には、削平された尾根の一部を観察できるが、明確な遺構・遺物は認められない。

7 丹切遺跡 (図28)

遺 跡 名	丹切遺跡 (橿原町遺跡地図番号 1-98、奈良県遺跡地図番号 15-B-8)
調 査 地	奈良県宇陀郡橿原町大字萩原 元萩原200-1、201番地
遺 跡 立 地	標高約306～330mの尾根・谷・河岸段丘
遺 跡 規 模	南北約700～800m、東西約300～400m
時 代 ・ 種 別	縄文時代～中世の遺物散布地
調 査 原 因	駐車場造成工事 (事業主体:個人)
現地調査期間	1992年6月17日
立 会 面 積	378m ² (工事面積)
検 出 遺 構	なし
検 出 遺 物	なし
調 査 概 要	盛土作業の立会

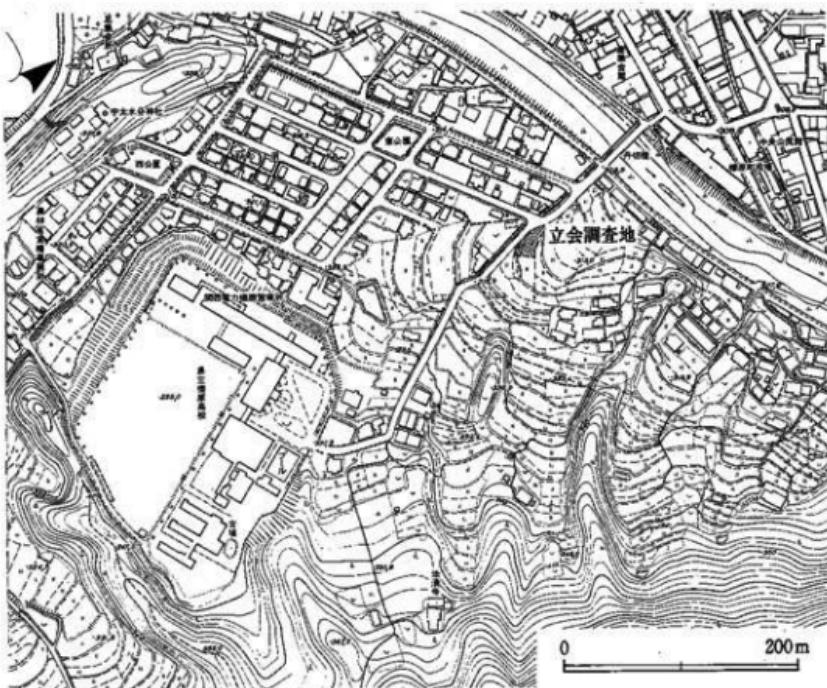


図28 丹切遺跡調査位置図(1)

8 丹切遺跡 (図29)

遺 跡 名	丹切遺跡 (橿原町遺跡地図番号 1-98、奈良県遺跡地図番号 15-B-8)
調 査 地	奈良県宇陀郡橿原町大字萩原 元萩原585、586番地
遺 跡 立 地	標高約306~330mの尾根・谷・河岸段丘
遺 跡 規 模	南北約700~800m、東西約300~400m
時 代 ・ 種 別	縄文時代~中世の遺物散布地
調 査 原 因	農業資材置場造成工事 (事業主体:個人)
現地調査期間	1992年8月18日
立 会 面 積	383m ² (工事面積)
検 出 遺 標	なし
検 出 遺 物	なし
調 査 概 要	盛土作業の立会



図29 丹切遺跡調査位置図(2)

9 丹切遺跡（図30）

遺 蹤 名 丹切遺跡（桜原町遺跡地図番号 1-98、奈良県遺跡地図番号 15-B-8）
調 査 地 奈良県宇陀郡桜原町大字萩原 元萩原344、345番地
遺 蹤 立 地 標高約306～330mの尾根・谷・河岸段丘
遺 蹤 規 模 南北約700～800m、東西約300～400m
時 代 ・ 種 別 縄文時代～中世の遺物散布地
調 査 原 因 農地造成工事（事業主体：個人）
現地調査期間 1993年4月9日
立 会 面 積 660m²（工事面積）
検 出 遺 構 なし
検 出 遺 物 なし
調 査 概 要 盛土作業の立会



図30 丹切遺跡調査位置図(3)

10 戒場遺跡（図31）

遺 跡 名	戒場遺跡（株原町遺跡地図番号 3-1・2、奈良県遺跡地図番号 103-9・10）
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字戒場818-2番地
遺 跡 立 地	標高約520～550mの丘陵南斜面・傾斜地
遺 跡 規 模	南北約2500m、東西約300m
時 代・種 別	縄文時代・平安時代～中世の遺物散布地、平安時代の寺院跡
調 査 原 因	構造改善センター建設工事（事業主体：株原町）
現地調査期間	1993年3月1日
立 会 面 積	197m ²
検 出 遺 構	なし
検 出 遺 物	なし
調 査 概 要	

戒場遺跡は、平安時代後期には成長寺境内に相当すると考えられる。その南門跡近くにおいて地区的公民館相当施設が建設されることとなったため、浄化槽埋設箇所を中心に立会調査を行つた。現地裏直下は、いわゆる株原石の基盤層で明確な遺構・遺物は認められず、すでに旧公民館建設によって基盤層が掘削されている。

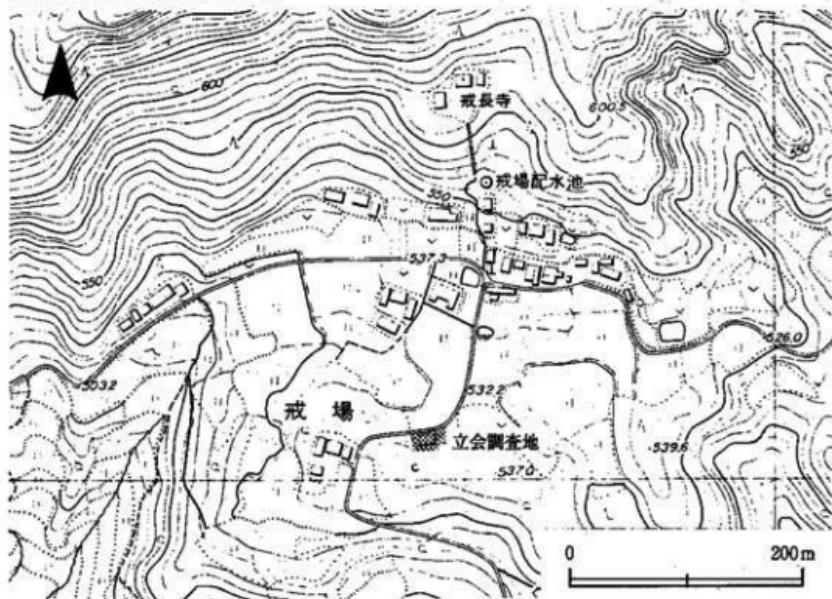


図31 戒場遺跡調査位置図

11 八瀧長坂遺跡（図32）

遺 跡 名 八瀧長坂遺跡（株原町遺跡地図番号 4-23、奈良県遺跡地図番号 105-3）
調 査 地 奈良県宇陀郡株原町大字八瀧1125番地ほか
遺 跡 立 地 標高約394～400m谷
遺 跡 規 模 南北約70m、東西約600m
時 代・種 別 繩文時代～中世の遺物散布地
調 査 原 因 農地造成工事（事業主体：個人）
現地調査期間 1994年3月4日
立 会 面 積 4800m²（工事面積）
検 出 遺 構 なし
検 出 遺 物 なし
調 査 概 要 盛土作業の立会

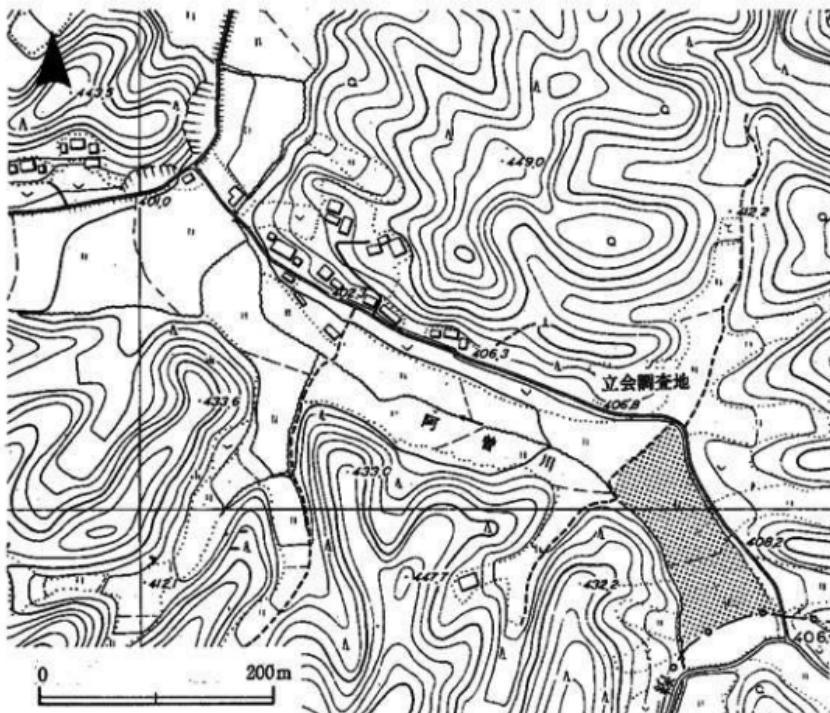


図32 八瀧長坂遺跡調査位置図

12 笠間所在遺跡（図33）

遺 跡 名	未定（仮称 笠間所在遺跡）
	（橿原町遺跡地図番号 2-300、奈良県遺跡地図番号 15-B-190）
調 査 地	奈良県宇陀郡橿原町大字笠間2414-1番地
遺 跡 立 地	標高約330～340m河岸段丘・谷
遺 跡 規 模	南北約50m、東西約250m
時 代 ・ 種 別	古墳時代の遺物散布地
調 査 原 因	農業用倉庫建設工事（事業主体：個人）
現地調査期間	1994年12月16日
立 会 面 積	168m ² （工事面積）
検 出 遺 構	なし
検 出 遺 物	なし
調 査 概 要	盛土作業の立会

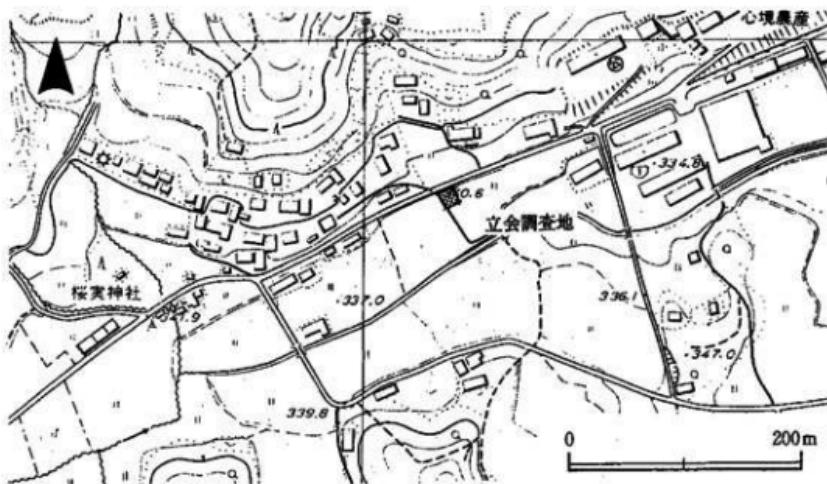


図33 笠間所在遺跡調査位置図

橿原町遺跡調査集 I

橿原町文化財調査概要 15

1995年 3月31日 発行

**編集 橿原町教育委員会
発行 奈良県宇陀郡橿原町荻原164番地**

**印刷 株式会社 中西文山堂
奈良県橿原市今井町3丁目31-1**